

21世紀水倶楽部だより

発行：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部
発行者：亀田 泰武
編集：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部 広報担当
〒171-0011 東京都豊島区目白2-1-1
URL <http://www.21water.jp/>
E-mail info1@21water.jp

第39号 2015年7月15日号

ごあいさつ

理事長 亀田泰武

はからずも3期目の理事長選任となりました。新たな課題への取り組みなど、マンネリにならないよう務めてまいります。

北陸新幹線が金沢まで届き、便利になったと喜ばれている。経済効果も大きいらしい。長野駅から先228kmについては2005年から10年かけて



建設された。必要なものなら早く作った方がいいので建設時期がいつであったらよかったのかということがある。経済的には、早く建設して、営業開始すれば、金利は抑えられるし、投資の回収も早くなり望ましい。一方、工事の関係でいうと地盤改良などはゆっくり取り組んだ方が大幅にコストが下がることなどがあり、どうすれば良かったかという話は難しいが、ずいぶん遅い感じがする。

一方、中国の新幹線延長が1.6万キロと短期間で我が国の5倍にもなってしまった。

我が国では公共に関わることは何事もゆっくりになってしまったようである。事業だけでなく、法制度なども時代に合わせて変えていくことがどんどん遅れている。

経済成長が止まり失われた何十年と言われているが、物価は安定しているし、国外資産は沢山持っているし、豊かな社会は続いている。高齢化、生産年齢人口の減少などを見据えた基本的な取り組みの構築が必要であるがなかなか進んでいない。

観光地で何軒ものお土産屋さんが皆同じものを売っているなど、企業数が多すぎる一方、ブラック企業、鬱病の増加など過酷な労働条件で働いている人が多く、貴重な働く人が適正に配置されていない。収入が低くて結婚もできないという声も大きい。

貴重な生産年齢人口が適正に配置され、効率的な仕事ができ、収入が確保され、幸せな家庭を築ける、皆が満足する社会にしていかなければならない。

その中で高齢者の活用は大きな価値がありNPOなどの活躍の場をもっと広げて社会に貢献するようにしていく必要がある。

皆が心配なく生きていけるような国の基本を早く作って行かなければならない。

2015年度総会報告

理事・事務局長 田野嘉男

NP021世紀水倶楽部の通常総会が、(公財)日本下水道新技術機構8F会議室において開催されました(6月19日(金))。

審議事項は以下のとおりです。

1. 平成26年度事業報告、収支決算、
2. 平成27年度事業計画(案)、収支予算(案)
3. 役員選任

雨模様の中、正会員総数91名の中で59名の出席(委任状24名を含む)を頂き、総会は成立致しました。

会議冒頭で、亀田理事長は「この1年間の活動を振り返り、今後新たな課題への取り組みの必要性について」の挨拶をされました。



続いて議事に入り、26年度事業報告・収支決算の内容が説明

され、共に承認されました。ひき続いて27年度事業計画(案)、収支予算(案)の内容が説明され、共に承認されました。役員を選任については、阿部恭二、亀田泰武、栗原秀人、昆久雄、佐藤和明、清水洽、田野嘉男、中西正弘、望月倫也、山下博、渡部春樹の各理事および河井竹彦、藤原昇氏の監事の再任が承認されるとともに、巽良雄、土屋潔、廣本真次郎、山崎義広理事の辞任に伴い押領司重昭、仁井正夫、村上孝雄、山木幸夫の理事就任が承認されました。また、引き続き行われた臨時理事会において理事長に亀田泰武氏、副理事長に清水洽氏、事務局長に田野嘉男氏が選任されました。

議事終了後、講演会が開催されました。選任されたばかりの仁井正夫理事から「水道」と「下水道」を対比し、その性格、事業目的、法的位置づけ等、似たようで似てない旨の興味ある講演がありました。



5時半から懇親会が開催され、来賓として国土交通省下水道部から塩路下水道部長等が来られ、多数の会員とともに懇親を深めることが出来ました。

(以下、編集の都合で、空白となり、次頁に続きます)

新役員自己紹介

押領司理事

「蛸壺から出て」

J S 日本下水道事業団時代に上司の方が「我々は、蛸壺の中で仕事をしている。公共事業の中の下水道事業分野、下水道分野の中の官側、官の中でも処理場・ポンプ場の



設計・建設が主体の環境にいることを認識し、広い視野を持つべきだ。」という主旨の話をされていたことを思い出しています。

私自身、38年間、J S という蛸壺におり、現在、コンサルタントという民側の世界に足を踏み入れました。当社の業務には、当然ですが、下水道部門では処理場等以外に管渠があります。さらに、上水道や廃棄物処理など業務も手がけています。また、人間関係においても、自社の人たちと、水コン協では他社の方々と、そして、当 21 世紀水倶楽部ではコンサルタント以外の業種の方とも触れ合う機会に恵まれました。一度しかない人生において、この歳で、さらに、自分の世界が広がったことに幸せを感じています。

このように、蛸壺から這い出して、2年目の若輩者にもかかわらず、理事という大役を仰せつかりました。皆様のご指導、ご鞭撻をいただき、視野を広げつつ、職務を全うしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

仁井理事

このたびの総会で理事に選任された仁井と申します。私は34年余の公務員生活で1/3ほどは、水関係に従事しておりました。その分野は水道、水環境、水資源の分野で、下水道に直接従事したことはありません。当倶楽部の会員歴も1年半ほどです。という経歴で当倶楽部会員の中ではやや毛色の異なる存在ですが、これからもお付き合いのほどよろしくお願いいたします。



(現職) (一社) 日本水道工業団体連合会

村上理事

この度、理事に就任した村上孝雄です。1975年から38年間、日本下水道事業団に在籍し、処理技術の開発等の業務に従事していました。退職後、2013年末から株式会社日水コンに在籍しております。1953年生まれですから、もう還暦は過ぎていますが、これでも21世紀水倶楽部では若手だということなので、老いてますます盛んな先輩理事諸氏のご指導を受けながら、体力・気力に鞭打って、21世紀水倶楽部の活動を盛り上げて行きたいと思っております。よろしくお願いいたします。



山木理事

この度、理事に就任しました山木です。

私は、埼玉県庁で通算24年間下水道事業に従事し、設計企画、市町村指導、維持管理等幅広く経験することができました。残念なことに最近の人事では、道路や河川行政等の他部門との交流が頻繁にあり、自分の専門分野を持ちにくくなっておりま



す。第一線の下水道現場で活躍されてきた地方自治体職員が貴重種になりつつありますが、少しでも多くの方が参加できるよう頑張りたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

残されたタブー

竹石和夫

公共団体を訪問した際は、できるだけ処理場を見学することになっている。維持管理担当の方の説明をお聞きし、整備された施設と澄んだ処理水を見るのは気持ちの良いものである。

ところが、説明の歯切れが悪くなるのが雨天時の状況である。分流式であるにも拘らず、多くの処理場では雨が降ると流入量が大幅に増え、ポンプをフル運転し沈砂池が溢れるのを凌いだという話もしばしばである。合流式ではバイパス水路が設けられているが、分流式では雨水は入らない建前で水路がない処理場も多く、汚泥の流失を防ぐためエアを止め、池面を走らせ放流している。

水路を増設する処理場もあるが、補助金を入れる理屈に苦慮する話も聞く。設計指針は雨水浸入水について、計画では考慮せず、実績を調べた上で対策を取るとしており心許ない。

不十分な処理で放流する時、水質基準を守れているのだが、そもそも下水道法では放流水の検査は雨の影響の少ない日に行

うとしており、雨天時の処理の実態は十分把握されていない。以上のような雨水浸入水による量・質の問題は分流式の多くの処理場で共通であるが、残念ながら本格的取組みは見られない。

取組みが進まない理由は、雨水浸入には様々な要因があり自治体によっても異なる、発生源が面的で膨大な手間と費用を要し、効果がすぐ現れない等であるが、他にも、大都市の殆どが合流式であること、困っているのは処理場の維持管理担当で、その切実さが計画建設部門に十分認識されないことも要因と思われる。

この問題を不明水問題と呼ぶ場合があるが、そう言った途端に原因は不明で対策も不可能のイメージを与える。不明水には地下水浸入水もあるが、問題とすべきは雨水浸入水である。またSS0（污水管越流水）問題と呼ぶ場合もあるが、これも分かりにくい。

雨水浸入水が多い所でも管路から溢れる例は少ない。なぜなら、そうならないよう処理場では必死にポンプを運転しているからである。問題に取り組むにはまず用語を明確にする必要がある。

それにしても“残されたタブー”とは思わせぶりな、と言われるかも知れない。実はこの問題を訴えた時に返ってきた言葉であった。もしそのような認識が下水道界にあるとすれば極めて残念で、タブーのままではよいはずはない。雨水浸入水問題は、小雨の欧州の下水道技術を導入した帰結とも言え、多雨地帯のシステムとして下水道をどう根付かせるかという視点もある。合流式の問題に一応の決着をみた現在、早急に取組むべき課題と思われる。

編集幹事のあと整理

- 巻頭文は亀田理事長、三期目の就任あいさつです。高齢者活用の社会要請とNPOの役割。
- 6月19日の通常総会報告を田野事務局長からいただき掲載しました。田野事務局長も留任されました。
- 新任理事四氏の自己紹介の文を掲載しました（氏名五十音順に）。顔写真も載せていただきましたので、よろしくお見知りおきください。
- 会員だより、竹石和夫会員から污水管への雨水浸入水（不明水の種類）を受ける処理場での「始末」の話です。竹石氏は文中その「不明水」という用語を問題にされていますが、その「不明水問題を考える」テーマのシンポジウムを平成23年9月に開催しています。その報告も参考にご覧ください。
- 編集の（技量上の）都合から、ページ途中に空白の多い誌面になってしまいました。挿入写真の配置が一部自由にならなかったため空白（改頁）を入れざるを得なかったものです。
- 会員だよりコーナーへの投稿を募集しています。投稿はいつでも受け付けます。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月